

2021 年度土壤物理学会 臨時総会

日時：2022 年 3 月 11 日（金） 12:00-13:00

方法：zoom ミーティングによるオンライン開催

総会構成員：正会員、シニア会員および学生会員

次第

- 1 会長あいさつ
- 2 議長選任
- 3 議事
 - 3.1 学会誌「土壤の物理性」の一部ペーパーレス化（試行）について
 - 3.2 会則第 5 条（会費）の改正について
 - 3.3 その他
- 4 議長解任

【採決票】 <https://forms.gle/r7xfpGR1pdNm5kuRA>

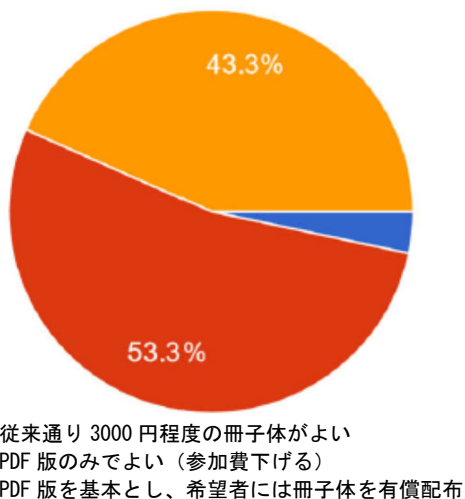
3.1 学会誌「土壌の物理性」の一部ペーパレス化（試行）について

評議会および学会事務局においては、昨今の状況と、先に会員の皆様にお願ひしましたアンケートの結果に基づき、学会刊行物のペーパレス化について、会員動向や予算の現況なども踏まえて検討を重ねて参りました。

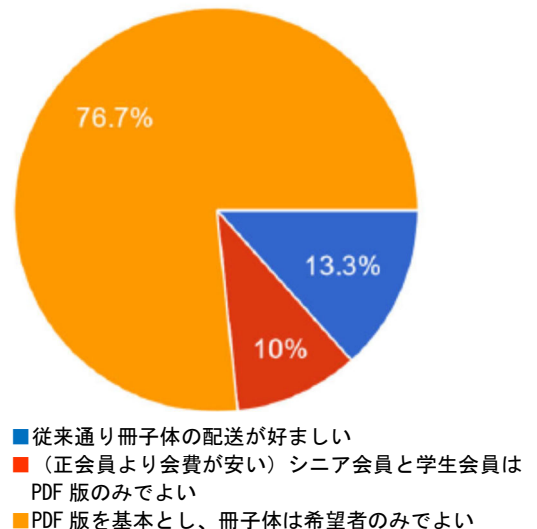
アンケート（12月24日～2月10日）結果：

- ・個人会員 281 名中 30 名（11%）から回答。内、学生会員 52 名からの回答は「0」名。
- ・要旨集：電子版でよいが、希望者には紙面版も可能としてほしいとの意見が多かった。
- ・学会誌：電子版のみでよいとする声もある一方、紙面版を望む声もあり、多様な意見があった。

【大会講演要旨集】



【学会誌「土壌の物理性」】



【自由記述（事務局要約）】

★ペーパレス化に反対

- ・和文の論文や学会誌は本棚に置いておきたい。冊子体配布の無くなった論文集（土木学会論文集）の購読は辞めましたし、学会（地盤工学会）は辞めました。本がなくなれば学会は辞めると思う。

★ペーパレス化に賛成だけど紙面版ものこしたい

- ・（事務局の負担が増えるのは承知の上で）選択肢は広い方がよいと考え「希望者には紙面版」と回答。
- ・選択肢はもっとあるはず。可能なら「学生会員は pdf だけで良い」も含めたい。
- ・「紙面版配送は希望者のみ」の（配送の有無によらず年会費は従来通り）は削除。印刷・郵送費を削減し、コストに見合った学会費とするのが適切。
- ・基本的にペーパレス化に賛成。しかし、冊子体も残して欲しい。会社の経費で学会に参加した場合の要旨集は、会社の資産として扱われるため。すなわち、購入図書と同様に資料に資産であることを示す確認印を押すために、冊子版が必要になる。図書管理の電子化が遅れているのですが、仕組みを変えるには経費が掛かるために、しばらく冊子体があると助かる。

★ペーパレス化に賛成

- ・冊子体の郵送は、PDF 版を閲覧できる仕組みがあれば、必要ない。
- ・全面的なオンラインジャーナルへの移行を検討してもいいのではないのでしょうか？
- ・さみしい思いはあるが、学会誌も pdf 版(Online) のみにして会費を安くする方が会員のすそ野を広げられるのではないかと。
- ・pdf 化を進めるに当たり予算に余裕があれば、追加ページ料、投稿料などを可能な範囲で値下げし、投稿を促すのがよい。

評議会および事務局での議論：

- ・「電子版のみ」の選択はシステムの的に可能か
- ・「電子版のみ」と「冊子体」の選択が年中自由にできてしまうと管理できない。
- ・電子版のみを選択した場合の会費をどうするか。
- ・会費を無料としてしまうと帰属意識の低下等の問題が生じる
- ・会員数確保／学会活性化のためには何が一番よいか
 - シニアに継続してもらう場合、冊子体は置き場所にも困る？名誉会員の的に無料でもよくないか。
 - 退会したシニアの再入会も検討いただけるのではないか。
 - 電子版では学生会員向きの資料・土粒子等は学生の目には触れないのではないか。
 - 電子版の広告が会員の目に触れないのではないか／広告が会員の目に触れる方策が必要
 - 正会員は「電子版のみ」の選択がなくてもよいのではないか（**学生とシニアから試行**）
- ・印刷数がこれ以上減ると、現状のオフセット印刷からオンデマンド印刷に移行したほうが割安になる。郵送割引がなくなり配送料は高くなる。電子版を導入すると予算が読みにくい／オンデマンド印刷への移行の心構えはいずれにせよ必要。
- ・全個人会員が「電子版のみ」となっても、購読会員、賛助会員には冊子体は継続。国会図書館や関連学会への寄贈分も冊子体継続か。
- ・現時点では繰越金が多く、今後の会員動向見込や企画なども含め有益な運用の継続的検討が必要。

等

#参考# 会員数現況（2022. 3. 9 現在）

シニア	25名
学生会員	51名
正会員	205名

正会員が205名まで減少（個人会員総数281名）。年度末退会を見越すと4月には200人を下回る。100人を下回ると学会として認められなくなる

#参考# 出版費試算

	全て冊子体 印刷冊数	シニアと学生の 7割が電子版 のみ 印刷冊数	シニアと学生の 全てが電子版 のみ 印刷冊数	全会員の5割 が電子版のみ 印刷冊数	全会員の5割が電 子版のみ 送料割引なし 印刷冊数
正会員	200	200	200	100	100
シニア会員	26	8	0	13	13
学生会員	50	15	0	25	25
賛助会員	7	7	7	7	7
購読会員	40	40	40	40	40
保管販売用	5	5	5	5	5
冊子体発行総数	328	275	252	190	190

土壌の物理性一号当たりの作成にかかる料金

版組料金	205000	205000	205000	205000	205000
印刷料金	180400	151250	138600	104500	104500
送料	41328	34650	31752	23940	58900
計(円)	426728	390900	375352	333440	368400
全て冊子体の場合からの差額		35828	51376	93288	58328
年間3号分の差額(安くなる)①		107484	154128	279864	174984

会費収入(正会員5500、シニア会員、学生会員のみ:以下の青枠内とした場合)

年会費総計	1328000	1204000	1150000	1239000	1239000
差額(減額)②		124000	178000	89000	89000

正会員	5500円(現行)	電子版のみの正会員	5500円(割引なし)
シニア会員	3300円	電子版のみのシニア会員	無料
学生会員	3000円	電子版のみの学生会員	1000円

①-② -16516 -23872 190864 85984

【審議事項】

学会誌については、「冊子体の送付なし」の選択を可能とし、会費を以下の様に設定する(試行)。

正会員	年額	5500**円
シニア会員	年額	3000(無料*)円
学生会員	年額	3000(1000*)円

* 学会誌の送付なしの場合

** 正会員の会費は学会誌の送付の有無によらず定額

冊子体送付の選択は、継続会員については年度末までに限り、翌年分に反映する。マイページにおける会員自身による選択、新規登録時のみとし、その後は事務局への連絡のみを受け付ける。

3.2 会則第5条（会費）の改正について

改正部分はアンダーラインで記載（改正日案：2022年4月1日）

学会誌電子化の試行に伴う会費に関する会則改定（案）

改正案	現行
第5条 会員は次の会費を所定の期日までに納めるものとする。	第5条 会員は次の会費を所定の期日までに納めるものとする。
正会員 年額 5,500 円	正会員 年額 5,500 円
シニア会員 年額 3,000 円 <u>（無料**）</u>	シニア会員 年額 3,000 円
学生会員* 年額 3,000 円 <u>（1000 円**）</u>	学生会員 年額 3,000 円
* <u>学生会員は大学院生を含む</u>	（大学院生を含む）
** <u>学会誌の送付なしの場合</u>	
賛助会員 一口年額 22,500 円	賛助会員 一口年額 22,500 円
購読会員 会誌年額 7,500 円	購読会員 会誌年額 7,500 円
広告料	広告料
賛助会員	賛助会員
土壌の物理性各号 1 ページ無料	土壌の物理性各号 1 ページ無料
2 ページ目以降は 10,000 円／ページ	2 ページ目以降は 10,000 円／ページ
賛助会員以外 22,500 円／ページ	賛助会員以外 22,500 円／ページ

3.3 その他

以下に最近のニュースを報告いたします。詳細は学会誌および学会 HP でご確認ください。

○2022 年度土壌物理学会大会・シンポジウム

10 月 29 日（土）に三重大学で開催します。

対面開催予定で、参加費無料です。

○会員登録情報についてのお願い

年度末が近づいています。会員情報の変更が生じましたら、学会 HP の「マイページ」から修正下さい。

○土壌の物理性

150 号がまもなく配送となります。

151～152 号に向け放射性物質関連特集を企画中です。関連する内容の投稿希望がありましたら、kibyosi@ml.affrc.go.jp までご連絡ください。

○国際基礎科学年

土壌物理学会は国際基礎科学年（2022.6.30～2023.6.30）に協賛しています。

○出版企画案募集

会員の皆様より出版企画を公募しています。

○日本学術会議／国際学術会議

ウクライナに関する談話、ステートメントへのリンクを HP に掲載しています。